



# 和歌山大学 南紀熊野サテライト 2015年度 事業総括書

2016年3月

和歌山大学  
南紀熊野サテライト

## はじめに

### ◆南紀熊野サテライト開設10周年記念事業実施・今後の更なる活動を目指す契機の年

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年4月に「地域型サテライト」として設置されて10周年を迎えた。2015年の取り組みでは、10周年記念事業を中心に、設置からの10年間の取り組みを整理、発信し、今後の更なる活動を目指す契機の年となった。地域からの声を今後の運営に活かすために、多方面へのアンケート調査を実施（地域住民、受講者、自治体職員、教員、他大学）した。高等教育関連では、地域ニーズを取り上げた授業編成や開設時間を検討するなど、体系的な地域学の学習機会を継続設置した。地域学から郷土愛を育み、地域資源の保全と活用する内容や、暮らしの安全を題材と内容等、多様な講座や授業を開講。また昨年度からの県の観光誘客が増えるゴールデンイヤーに併せて、持続可能な次世代の観光経営のあり方を実践的に学ぶ場として「南紀熊野観光塾」を開塾。自治体職員、観光商工業従事者、地域住民、大学生等、多数の参加を得て、地域で中核となる人材を養成している。また、学内研究チーム教員等と連携した地域の調査研究や現地報告会の開催支援等を行った。地元高校と連携して記念式典開催する等、幅広く大学と地域を繋ぐ連携活動を実施。地域拠点サテライトとして、今後の学内外の連携機会を幅広く展開する契機の年となった。本報告書において2015年度事業を総括する。

### ◆2015年度事業の特長・課題（※特長・課題とも絞り込むため5つに絞っている）

2015年度の南紀熊野サテライト事業の特長・課題を、箇条書きにまとめたい。

#### 【5つの特長】

##### ①地域学に根ざした授業編成、多様な学習機会を設置

→体系的に学授業編成を継続設置。紀伊半島の災害や暮らしのリスクと恵みを学ぶ「紀州郷土学」や「地域暮らしの安全学」「地域づくり戦略論」を設置。幅広い世代で科学や歴史文化を楽しめる「サイエンスカフェ」を市街地のカフェで実施。全国の実践者を招き「南紀熊野観光塾」を開講。

##### ②地域課題（地域の経験知）と、大学研究（専門知）とを繋げた地域貢献

→学内教育改革事業（観光学部出口教授）の現地支援を実施。担当教員等と共に南紀熊野サテライトで研究成果を基に授業化。学内研究と地域研究のコーディネートや研究会の運営支援を実施。

##### ③南紀熊野サテライト10周年記念事業を実施

→地域から大学への期待をお聞きして更なる活動を目指す契機として位置付けた記念式典を開催。地元高校との連携企画や同窓会活動紹介展示、パネルディスカッション等の活動紹介、参加者交流を実施。模擬講義での学部紹介、進学相談を実施。学生生活の紹介、研究発表、連携協議会の活動紹介等を、幅広い世代の参加者を対象に実施。記念誌発行、田辺市でのまち歩き企画等、10周年関連事業を実施。

##### ④自治体・教育委員会・地域との連携協働の推進

→地域づくり・人づくり事業に参画して、地域企画に協力。地域と大学の連携を実施。

##### ⑤学内外への広報戦略の拡充 ⇒【※掲載新聞、広報紙は資料集を参照】

→入試、紀南卒新設の掲示、学生制作広報紙の配架やデジタルサイネージ（映像表示装置）の継続設置。HPでの活動紹介の更新回数を増加。新聞、ラジオ等メディアへの情報提供。地域での教育研究活動を学内外へ情報発信して相互理解を深めている。

#### 【5つの課題】

①教育研究活動による地域発展モデルの構築と更なる連携推進で「知の循環」に貢献

②学生の教育研究支援の学内外の支援組織体制の構築と活動エリア拡大に向けて情報の共有と活用

③サテライトを拠点として、活動する学生、同窓会組織、小中高大等の連携推進

④地域で活動する学生の交流機会増加に貢献

⑤サテライトの学内外への認知度向上のための戦略的な広報活動

# 南紀熊野サテライト事業総括 報告書 2015年度

## 目 次

### 1、はじめに、

南紀熊野サテライト 2015年度の事業概要と課題

### 2、具体的活動成果 授業実施状況

【1】 高等教育部門／主催講座関係

【2】 南紀熊野サテライト10周年記念事業

【3】 地域研究・生涯学習部門／本学授業、学生活動の支援

【4】 地域連携産学官連携部門／地域からの相談／広報活動

【5】 台風12号災害対策本部分室としての活動

【6】 運営基盤の強化／視察受入等

### 3、あしがき

### 4、新聞掲載資料

## 【1】高等教育部門／主催講座関係

### 1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

大学院受講者5科目延べ18名（修士課程含）、学部受講者5科目延べ111名（高校連携含）合計129名

※備考：南紀熊野サテライト修士課程研究指導申請1名

《2015平成27年度 南紀熊野サテライト受講生申請状況一覧》

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	修士課程	高校生	
大学院	前期	地球と惑星の気象学	中串 孝志	観光学部	2	1	/	3
		持続可能な現代社会	岡田、他2名	経済学部	5	1		6
		地域再生論	鈴木 裕載	経済学部	3	1		4
後期	紀伊半島の地質とジオパーク	久富、此松	教育学部	2	1	3		
	紀伊半島の環境と生活	足立、他4名	システム工学部	1	1	2		
					合計			18

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
学部	前期	紀州郷土学2A	此松、他4名	オムニバス	30	0	0	30
		地域暮らしの安全学D	豊田、他5名	オムニバス	9	1	0	10
後期		地域暮らしの健康学A	藤永、他2名	オムニバス	6	0	0	6
		紀州郷土学2B	此松、他5名	オムニバス	24	0	0	24
		地域づくり戦略論A	藤田	観光学部	20	21	0	41
					合計			111

※オムニバス（学部複合での開催の意味）

総合計	129
-----	-----



大学院授業の様子「地域再生論」



学部開放授業の様子「紀州郷土学2A」

《実施概要》 ※特徴的なものを赤字表記する。

#### ①大学院科目の概要

《フィールドワークを取り入れた地域型の授業を実施》

教室内での座学だけでなく、地域の実践者への聞き取りや、視察調査を行うなどの学習を深めた。「紀伊半島の環境と生活」では、**世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」**に認定されている地域の現地調査を行い、経営者や自治体職員から近年の活動内容等の意見交換を行った。食料及び生計の保証、生物多様性及び生態系機能、知識システム及び適応技術、文化・価値観及び社会組織、優れた景観及び土地と水資源管理の特徴・水管理などから、世界に類をみないウメ生産システムに学び、今日的意義を考察した。

「紀伊半島の地質とジオパーク」では、日本列島や紀伊半島の生い立ちから、紀南のジオサイト、**南紀熊野ジオパーク**の現状と、ジオパーク活動が地域特性を活用した「郷土教育、防災教育の機会」、または「地域振興の機会」として捉え、ジオツアーやガイドに必要な要素や、近年の課題や可能性を展望するなど、紀伊半島の地質、ジオパーク活動を事例に、近年の県域での取り組みについての理解を深めた。

## ②学部科目の概要

《総合的・体系的な学びの機会に、2年間の継続授業科目として設置》

地域ニーズを反映した授業編成で、**体系的な学びの機会**として設置。熊野地域の諸課題に対する地域ニーズの高い内容について聞き取り、地域コーディネーターにより学内研究 PG 教員等の調整を行い研究成果の地域還元として授業化して開講。紀伊半島での、暮らしのリスクや恵みを学ぶ「地域暮らしの安全学」「地域暮らしの健康学」「紀州郷土学」をはじめ、公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団の寄附講義「地域づくり戦略論」4科目で編成。自然災害を地盤の形成から考え、地形地質から生まれる豊かな自然の恵みと、歴史文化を学ぶものとして開講。地域暮らしの安全学では、災害対策だけではなく、地域の暮らしの中での「経済」や「教育」も取り扱った。地域住民の共感を得て学部開放授業の受講希望者数が増加。現役教員や、自治体職員等の研修目的でも受講されて、定員を超える受講者数を得た。また、前期・後期と継続して受講した者へ**「修了証」を発行**するなど、継続受講を推奨したPRも実施。体系立てた授業編成と修了証発行により、継続受講数が増加した。

また、県教育委員会との連携により実施している「高校生を対象とした大学授業の公開」事業より、高校生の他、和歌山大学生、地域住民がサテライトの同じ教室で大学の講義を受ける機会となった。



地域暮らしの安全学でネットモラルを学ぶ



継続受講者へ修了証授与式の様子

### 1-2 主催講座・発表会関係

《和歌山県での実践的な観光の学びの講座、講演会を開催》

南紀熊野サテライト連携協議会主催の**公開講座&受講生募集説明会**を、春と秋に実施した。

また、和歌山大学観光学部の教員と連携して西牟婁地域（白浜町他）、東牟婁地域（古座川町）にて、**観光塾の講演会**を開催。その他、授業終了後の夕方に、若年層も参加できる「**サイエンスカフェ**」を、館内オープンカフェスペースや、市街地のカフェを利用して、月に一度程度開催。

#### ①南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

《H27年度後期 公開講座&受講生募集説明会》

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

開催日：平成27年8月9日（日）13：30～16：00 参加40名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室4

内容：記念講演「**自転車**で作る暮らしと健康」

講演者：藤永 博教授（和歌山大学経済学部）

「**真田幸村**の九度山脱出と紀州藩主浅野氏」

講演者：小山 譽城（和歌山大学非常勤講師、歴史学博士）

地域暮らしの安全学 C 及び、D 継続受講者に対して、修了証授与式を実施（6名授与）



H27年度後期 公開講座会場の様子



真田幸村と九度山脱出の講演する小山先生

## ②南紀熊野サテライト連携協議会主催 公開講座

### 《H28年度前期 公開講座&受講生募集説明会》

講演名：「和歌山大学南紀熊野サテライトオープンキャンパスセミナー」

開催日：平成28年2月27日（土）13：30～16：00 参加40名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室1

内容：記念講演「これからの地域産業と観光戦略」

講演者：出口 竜也教授（和歌山大学観光学部）

「サイクリングマップを作ろう～地域と健康についてのディープな学びのために」

講演者：藤永 博教授（和歌山大学経済学部）

紀州郷土学2A及び、2Bの継続受講者に対して、修了証授与式を実施（15名授与）



H28年前期 公開講座会場の様子



高低差が自動入力できるサイクルマップを紹介

## 1-3 サイエンスカフェ関係

### 《夕方開催！幅広い世代が参加する「サイエンスカフェ」など、多様な学習機会を設置》

受講ニーズアンケートから、「気軽に参加できる講座」「夕方仕事終わりに参加できる講座」を。との声が多かったため、堅苦しい講演会のスタイルではなく、お茶を飲みながら参加者と研究者が語る場として、自由に質問できる手軽さから毎回定員を超える参加者を得てきた。専門家による話題提供の後、参加者が自由に質問している。会場も会議室ではなく市街地のカフェを利用。

カフェのテーマ設定も、授業内容の中から人気の高いテーマを設定。学部開放授業「紀州郷土学」からは、他大学の講師や、先進地の実践者を招いて、地域関心の高まる「ジオパーク」や「ツーリズム」をテーマに「ジオカフェ」を複数回設置。自治体職員や地域住民に混じり地元の観光を学ぶ高校生や、大学生の参加等、多様な世代が集まる機会となった。また、郷土の獅子舞を取り上げた「獅子舞カフェ」の実施は、大変好評

で会場が満席でキャンセル待ちとなった。「地域暮らしの安全学」からは、教育現場での SNS や LINE アプリ利用を題材にして「ネットモラル」と危険性を考える「デジカフェ」を開催。身近に触れるサイエンスを大人が楽しく学べる学習機会として設置している。気負いしないサイエンスカフェへの参加経験から、和歌山大学の研究内容やサテライトで開講している大学の講義に関心を持ってもらい、開設の**大学院科目や学部開放授業へのステップアップ受講**にもつながっている。

### ①ジオカフェ

講演名：第8回ジオカフェ「そもそもジオパークって、なに？」

開催日：平成27年5月16日（土）17：30～19：30 参加25名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室2

講演者：中川和之（日本ジオパーク委員会）、此松昌彦教授（和歌山大学教育学部、防災研究教育センター長）

内容：此松教授（和歌山大学教育学部）をナビゲーターに、中川和之氏が日本のジオパークの現状を説明、ジオパークの住民参加の重要性と、これからのジオパーク活動について分かりやすく紹介。講師と一緒に、コーヒーを飲みながら気楽に学べるカフェとして授業後に開催した。



「紀州郷土学」授業終了後に、先生を囲んでコーヒー片手に「第8回ジオカフェ」の様子

### ②ジオカフェ

講演名：第9回ジオカフェ「ジオパーク ココだけの話」

開催日：平成27年6月13日（土）17：30～19：30 参加29名

会場：カフェ ルルココ（田辺市）

講演者：柚洞一央准教授（徳山大学経済学部准教授、Mine 秋吉台ジオパーク推進協議会委員）

ナビゲーター：中串孝志准教授（和歌山大学教育観光学部、宇宙教育研究所副所長）

内容：話題提供者に非・地質学者（人文地理学者）としてジオパークに関わってきた、柚洞一央准教授を迎えて、県や環境省のジオパーク担当者やガイド等の地域住民29名が参加。産業技術総合研究所の渡辺真人氏もオブザーバーとして参加。現在のジオパークの問題点を取り上げて、地学の基礎知識や関心が薄い、お客様目線に立ったジオパーク観光のあり方や、要改良の内容を語りあった。



市街地のカフェで、研究者等とジオパークについて語り合う「第9回ジオカフェ」の様子

### ③ジオカフェ

講演名：第10回ジオカフェ「ジオツーリズムという異文化交流」

開催日：平成27年6月20日（土）17：30～19：30 参加17名

会場：カフェ ルルココ（田辺市）

講演者：大西将徳（神戸大学大学院理学研究科学術研究員）

中串孝志准教授（和歌山大学教育観光学部、宇宙教育研究所副所長）

内容：中串孝志教授（和歌山大学観光学部）をナビゲーターに、大西将徳氏を話題提供者に迎え、（前職）日本科学未来館での勤務経験から、博物館で、科学者・技術者と市民とをつなげる役割を担う「科学コミュニケーター」の役割や、一般の方に科学を分かりやすく伝える為の工夫などの異文化コミュニケーションについて語り合った。



新宮市から高校生も参加。地球科学、サイエンスを楽しく伝える「10回ジオカフェ」の様子

### ④デジカフェ

講演名：第2回デジカフェ「いまさら聞けない？ライン講座」

開催日：平成28年1月9日（土）17：30～19：30 参加20名

会場：カフェ ルルココ（田辺市）

講演者：豊田充崇教授（和歌山大学教育学部）

内容：いまや日常的なネットワークコミュニケーションツールとなったLINE。その安全で快適な利用方法を学ぶ機会として実施した。「地域暮らしの安全学」の講義後に、市街地のカフェにて引き続き開催。教育現場での「ネットモラル」や中高生のネット依存、そのメディア特性について話題提供の後、日常生活での便利な使い方や、安全な設定方法等、実際にあった事例を、画像や自作の教材アニメを用いて、分かりやすく紹介。参加者からも、多くの質問を受けながら語り合った。



LINE カフェ会場の様子



携帯画像で、実際にあった事例を紹介



## ⑤歴史カフェ

講演会：第1回 獅子舞カフェ「和歌山と熊野の獅子舞」

開催日：平成28年1月23日（土）17：30～19：30 参加33名

会場：カフェ ルルココ（田辺市）

講演者：吉村旭輝特任准教授（和歌山大学紀州経済史文化史研究所）

内容：和歌山県内では、様々な場所の特色をもった獅子舞が演じられており、その歴史や特徴、違いを紹介しながら、地域性や現代的な問題を取り上げて語り合った。学部開放授業「紀州郷土学」の中から、特に受講者関心が高かった題材として「獅子舞カフェ」を実施したところ、地域の後継者問題や、獅子舞のルーツ、舞の意味等に質問が多数寄せられた。様々な地域の獅子舞演者や演奏者が集い、地域間、世代間での交流も生まれた。参加者等が実際に使用している獅子頭も、会場に持参していただき、獅子頭の特徴と地域性についても解説があった。その他、上富田町の子供獅子舞の演舞や演奏、すさみ町で活躍している笛奏者の実演披露もあり、臨場感のあるカフェとなった。

参加者からは、次回開催を希望する声も多く寄せられた。子供獅子舞を演じている小学生3名ら10代から80代の地域住民が熱心に参加した。



獅子舞カフェの会場の様子



上富田町の子供獅子舞の演舞

### 1-4 大学同窓会組織との連携

《同窓会ニーズ調査アンケートを実施。10周年事業の運営スタッフやパネル展示等での活動報告》

授業の受講経験者で構成されている同窓会270名に対して、授業や講座等の内容、開講時間等についてニーズ調査アンケートを実施した。10周年記念事業では、同窓会生の活動紹介のパネル展示や、パネルディスカッションに3名が登壇（学部受講者、大学院受講者、観光塾生）。受講動機や、学びの成果を報告。地域の同窓生の多様な業種世代の交流と連携を深めるための、企画講座や提案事業等の活動を支援。その他、情報収集として「交流シート」を配布するなど。同窓会生の自主的な運営を支援した。

#### ①ニーズ調査アンケートを実施

実施日：平成27年10月～12月に実施

対象者：受講経験者 270名、他

内容：次年度以降の運営に活用する目的で、サテライト受講経験者を対象にアンケート調査を実施。開設時間や内容について調査した。（開設当時と、5周年にも同じアンケートを実施している）同時に、自治体職員や地域住民に対しても同じ内容のアンケート調査を実施した。

## ②10周年事業での受講生の活動紹介、展示、体験コーナー

開催名：記念式典の会場運営と誘導、展示、体験コーナーの活動報告

開催日：平成27年12月13日（日）8：30～19：30 同窓会スタッフ20名、一般参加500名

会場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユ-多目的ホール（田辺市）

内容：10周年記念事業にて、前日からの会場設置や当日の運営、誘導、オープニングセレモニーでの風船配布準備や餅まき等、様々な運営支援をいただいた。受講生の活動紹介、展示、体験コーナーでは、受講者が歴史文化を題材にした木目込人形の展示や、地元高校の教諭による指導で、中高校生のポスターセッションも行われた。体験観光を受け入れている受講者からの出展で、干支の竹細工や地元民芸品のひょうたん絵付等の体験コーナーや、地元特産品の販売等も実施され、会場では様々な世代が交流する機会となった。



運営スタッフとして活動している同窓生（風船の配布、紅白餅を配布する様子）



ひょうたんの絵付け体験（上富田町）



干支の竹細工体験（日高川町）



式典会場外の展示の他、販売、体験ブースでの当日の賑わいの様子



運営スタッフとして活動している同窓生（風船の配布、紅白餅を配布する様子）

### ③10周年記念式典でのパネルディスカッション

開催名：南紀熊野サテライト開設10周年記念式典 サテライト受講者パネルディスカッション

開催日：平成27年12月13日（日）15時50分～16時25分

会場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユース 多目的ホール

コーディネーター：鈴木裕載（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）

パネリスト受講者3名、滝川泰彦氏（大学院経済学修士修了生）、大竹哲夫氏（南紀熊野観光塾修了生）、濱田千佐子氏（学部開放授業受講生）

内容：記念式典での受講者パネルディスカッションでは、鈴木先生をコーディネーターに、サテライト受講生の受講動機や、学びの成果を日常の活動にどう生かしているのかを報告。今後のサテライトの役割や地域と大学が連携した取り組みの可能性や期待を話し合った。



サテライト受講生によるパネルディスカッションの様子

### ⑤10周年記念式典後の祝賀交流会

開催名：和歌山大学南紀熊野サテライト「祝賀交流会 ～同窓会のつどい～」

開催日：平成27年12月13日（日）17時～18時30分

会場：和歌山県立情報交流センタービッグ・ユース 研修室1

内容：10周年記念式典終了後に、同窓会企画にて祝賀交流会を行った。サテライト設置時の立ち上げからご尽力いただいた先生方をはじめ、当日運営や設営をした同窓会生や協力いただいた地域住民。式典にご参加いただいた上富田町長、連携協議会の皆様、大学関係者等の沢山のご参加をいただき開催された。開設当時の思いや、今後への期待、お祝いのコメントを数多くいただいた。また、和歌山県を題材としたクイズ大会が用意され、商品に同窓会長が栽培した無農薬のレモンや地元産品が用意された。



瀧学長による乾杯のご発声



祝賀交流会場の様子



開設当時の思いを語る大泉先生



ご参加いただいた小出上富田町長



参加者が交流する様子



最後まで残って頂いた参加者と記念撮影

## ⑥同窓会交流シートを配布

自主的な同窓会事務局組織の立ち上げの支援を実施。同窓会員の有志の方と共に、受講生の交流を目的に「交流シート」を配布、回収した。

## 【2】南紀熊野サテライト10周年記念事業

### 2-1 10周年記念式典

#### 《南紀熊野サテライト10周年記念事業を実施》

地域からの大学への期待をお聞きして、今後の更なる連携を目指す機会として、10周年記念式典を実施。地元高校等との連携企画や同窓会の活動紹介展示、パネルディスカッション等の活動紹介、参加者交流を実施。模擬講義での学部紹介、進路相談等を実施。広報やクリエ、土曜学校等の大学生の活動紹介や、研究発表、連携協議会の活動紹介等を、幅広い世代の参加者を対象に実施。延べ500名に参加。その他、記念誌の発行。田辺市でのまち歩き企画等、10周年関連事業を実施した。

#### 《南紀熊野サテライト10周年記念式典》

連携協議会、同窓会の運営支援を受けて、南紀熊野サテライトが所在する施設である和歌山県立情報交流センタービッグ・ユーにて開催。約200名のご参加を頂いた。設立当時からご支援いただいている地域の皆様や連携協議会の皆さま、大学関係者、一般住民が参加して今後の地域社会と和歌山大学との融合、大学への期待を語り合う場となった。

名 称：南紀熊野サテライト10周年記念式典「地域社会と融合する大学への期待」

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会、和歌山大学

開催日：平成27年12月13日（日）13：00～16：30

会 場：和歌山県立情報交流センターBig・U 多目的ホール

内 容：①開式（中島正博サテライト長開会宣言）

②瀧寛和歌山大学長 挨拶

③真砂充敏南紀熊野サテライト連携協議会長 挨拶

④式典スピーチ、来賓祝辞（大泉英次 元サテライト長、溝口博一南紀熊野サテライト同窓会長）

⑤来賓紹介、祝電披露

⑥10周年記念講演、パネルディスカッション、修了生報告会

全体テーマ「地域振興における大学への期待」

- ・ 基調講演：「次代を創る人材育成とは」講師：山田桂一郎（和歌山大学教育アドバイザー、JTICSWISS 代表、「観光カリスマ百選」認定（内閣府、国土交通省、農林水産省）、総務省「地域力創造アドバイザー」、内閣府官房「地域活性化伝道師」他

- ・ パネルディスカッション：「地域を担う若者と大学」

パネリスト：真砂充敏（田辺市長）、小出隆道（上富田町長）、奥田貢（北山村長）

コーディネーター：山田桂一郎（和歌山大学教育研究アドバイザー）

- ・ 大学新組織紹介/説明：大西敏夫（和歌山大学経済学部教授、食農総合研究所所長）

金子泰純（和歌山大学システム工学部教授、和歌山大学 COC+推進室副室長）

- ・ サテライト受講生によるパネルディスカッション

コーディネーター：鈴木裕載（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）

パネリスト：滝川泰彦氏（大学院経済学修士修了生）、大竹哲夫氏（南紀熊野観光塾修了生）、濱田千佐子氏（学部開放授業受講生）

コーディネーター：鈴木裕範（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）

⑦閉会挨拶（呉海元和歌山大学理事）



10周年記念式典の会場の様子



「次代を創る人材育成とは」特別講演の様子



各市町村の現状を説明する様子



「地域を担う若者と大学」パネルディスカッションの様子



大学の新組織紹介の様子



食農総合研究所について説明する大西教授

記念式典での高校生の参加（オープニングセレモニー、展示、販売コーナー）

式典のオープニングでは、県立田辺高等学校邦楽部19名によるお琴の演奏や、県立熊野高等学校熊野サポーターズリーダー14名によるダンスの演舞などが行われ、参加した地域住民や子供たちが熱心に鑑賞した。オープニングセレモニー後には、同窓会生等が用意した風船の配布や、同窓生から寄附された紅白餅が配られて会場に笑顔が広がった。

また、県立神島高等学校の商品開発プロジェクト「神島屋」梅やきとりの販売に引率1名生徒6名、同じく神島高校家政科のエプロン販売に引率2名生徒3名、県立南部高等学校のジャム、梅干し等の加工品や花苗販売に引率教員2名、生徒3名が参加した。その後、会場の模擬講義や大学生との交流に参加した。



オープニングセレモニーで演奏する県立田辺高等学校邦楽部の様子



県立熊野高等学校熊野サポーターズリーダーのダンス演舞と、鑑賞する会場の様子



式典会場内の大学活動の展示



県立田辺中学校高等学校の生徒のポスターセッション



講談師が語る「海難1890」講談の様子

## 2-2 10周年記念 関連事業

### 《南紀熊野サテライト10周年の関連事業を実施》

地域からの大学への期待をお聞きして、今後の更なる連携を目指す機会として、10周年関連事業を実施した。記念誌の発行やアンケート調査、藻谷浩介氏を招いて田辺市長、観光商工担当者、大学生、観光塾生、住民等との田市街地を散策した後に意見交換をするまち歩き企画等の事業を実施した。

名 称：10周年記念事業「藻谷浩介氏とのまちあるき」

開催日：平成27年10月22日（木）9：30～13：00 参加34名

会 場：紀伊田辺駅から田辺市街地（散策）、田辺市役所別館3階会議室（意見交換会）

講 師：藻谷浩介（株）日本総合研究所 主席研究員）

参加者：真砂充敏（田辺市長）、多田稔子（田辺市熊野ツーリズムビューロー代表）、玉井洋司（田辺市観光協会会長）、泉清（田辺市商連理事長）、木村勝次（田辺市リノベーション推進協議会長）、尾崎弘和（田辺市リノベーション推進協議会副会長）他、出口竜也教授（和歌山大学観光学部）、竹林浩志准教授（和歌山大学観光学部）、此松昌彦教授（和歌山大学教育学部）、杉山幹夫（和歌山大学研究プロジェクト）、田中秀幸教授（東京大学）、和田充可（和歌山県立田辺中学・高等学校）他、田辺市職員7名、地域住民3名（南紀熊野観光塾生）、和歌山大学生9名

内 容： 設置10周年関連事業として開催。昨年、田辺市は熊野古道の世界遺産登録10周年を迎え、闘鶏神社等の世界遺産への追加登録を目指しているところである。このような中、田辺市街地に於いて「住民や訪れるひとにとって魅力的なまちとは何か」「今後の商店街のありかたとは」をテーマに、田辺市長、藻谷浩介氏と参加者として、インカムを付けて田辺市街地を散策した。その後に意見交換を実施して、今後のまちづくりに関して話し合った。参加した観光学部生からは、「町で暮らす人との会話やふれあいで田辺市のことに以前より興味を持つようになった。また訪れたいまちになった」という意見や、観光塾生からは、「普段暮らしているがカメラを持ちながら回

ると違う田辺市を知ることができた」等の意見が出た。翌日学生等は、ピックアップにて、散策で撮りためた写真と記事をネット上のデジタル記事にして編集、投稿して世界に発信した。これは、※教育改革推進事業「OSM と LocalWiki を活用した地域資源発掘と情報発信によるリーダー育成」の一環で、観光学部出口竜也、元産学連携研究支援センター客員教授杉山幹夫氏の指導で実施された。(※地域情報をウィキペディア形式で記事化できる LocalWiki を複合的に活用した地域資源の発掘と情報発信を行う作業を通じて、持続可能な社会を担うリーダーの育成を行うことを主たる目的とした事業)



まちあるき 出発前の様子 (JR 紀伊田辺駅)



藻谷浩介氏と田辺市街地を散策する様子



まちあるき後のランチミーティングの様子



ランチミーティングで発言する藻谷氏



参加者との意見交換の様子



田辺市の特徴について話す藻谷氏

### 《南紀熊野観光塾第3期を実施》

タイトル：南紀熊野観光塾 第3期

開催日：平成28年3月2日(水)～4日(金) 参加17名

会場：リヴァージュ・スパひきがわ(白浜町)

講演者：山田桂一郎塾長(和歌山大学教育アドバイザー、JTIC SWISS 代表、「観光カリスマ百選」認定)



内閣府、国土交通省、農林水産省、総務省地域力創造アドバイザー、内閣府官房「地域活性化伝道師」、和歌山大学観光学部出口教授、竹林准教授

内 容：3/2～（水）3/4 日（金）の2泊3日で開講された南紀熊野観光塾第3期では、塾生経験者とその知人を対象に第3期塾生を募集。宿泊業、飲食業、議員、ガイド、キャンプ場経営者、高校生（4月より和歌山大学観光学部生）、等17名の参加。南紀熊野地域のこれからの観光や持続可能な地域経営を考え、次世代の中核となる人材育成を目的に開講、昨年に引き続き今回で3期目の開催。今回はグループワークを重点的に行い、グループ毎に企画した商品を発表、講師から講評を受けて、今後具現化を目指す。講義を聞くだけでなく、実際に商品企画（物やサービス、旅行企画など）を作り上げ発表するまでの工程を学ぶカリキュラムで実施された。

講演会：南紀熊野観光塾 第3回 基調講演「地域の30年後の姿を考え、今なにをすべきか」

開催日：平成28年3月2日（水）13：20～14：50 参加28名

会 場：リヴァージュ・スパひきがわ（白浜町）

講演者：山田桂一郎塾長（和歌山大学教育アドバイザー、JTIC SWISS 代表、「観光カリスマ百選」認定内閣府、国土交通省、農林水産省、総務省地域力創造アドバイザー、内閣府官房「地域活性化伝道師」

ゲスト：島 康子氏（内閣府地域活性化伝道師。あおもり観光デザイン会議メンバー）、  
柏木隆久氏（新関西国際空港株式会社 総務人事部長）

主 催：和歌山大学南紀熊野サテライト 後援：和歌山県

内 容：「地域の30年後の姿を考え、今なにをすべきか」と題して、南紀熊野観光塾第3期の基調講演を開催。開講挨拶で出口竜也教授（観光学部）が講演。

自治体職員、観光業者、地域住民、町会議員、学生等28名が参加。

島 康子氏の講演は、最北端の町青森県大間からネット中継で開催。



山田桂一郎塾長



基調講演の様子



青森県、大間からネット回線生中継の様子



関西国際空港柏木隆久部長の講演の様子



南紀熊野観光塾生修了証授与式の様子

### 【3】地域研究・生涯学習部門

#### 3-1 地域研究関係

《学内の研究プロジェクトや教職員の地域活動の支援、学生の現地活動に支援を実施》

和歌山大学平成27年度教育改革推進事業 OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業での現地活動の支援を実施した。他、地域ニーズの把握と学内教員と連携する各種のコーディネートを実施し、南紀熊野地域での地域研究に繋げた。

《和歌山大学平成27年度教育改革推進事業の実施支援》

平成27年教育改革推進事業 OSM と LocalWiki を活用した地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業の現地支援を行った。後に、リーダー育成プログラムの一部内容を、南紀熊野サテライトでの学部開放授業において授業化することとなった。

オープンソースの地図である OSM (open street map) と地域情報をウィキペディア形式で記事化できる LocalWiki を複合的に活用した地域資源の発掘と情報発信を行う作業を通じて、持続可能な社会を担う人材育成を目的とした授業で、昨年度は、田辺市の中心市街地をフィールドにマッピングパーティと呼ばれるフィールドワークの手法を活用した。本年度では、対象地域に詳しい地域住民の参加を募り、本学学生との協働で学生では得られない地域資源の情報の獲得をはかるとともに外部者の視点を持つ本学学生による地域資源の評価を地域住民に提供することで地域資源の価値のとらえ直しを行う機会となった。同地域で過去に作成していた紙媒体の観光地図のデータ入力によるデジタル化が実現している。こうした事業実施を通じて田辺市内の各種団体（田辺市役所、田辺商工会議所、株式会社南紀みらい、田辺市観光協会、田辺市熊野ツーリズムビューロー、南方熊楠顕彰館、紀伊民報、FM TANABE、つれもてネットワーク、県立田辺高等学校、和歌山県情報政策課とのネットワークが構築された。この成果をもとに平成28年度サテライトで開講予定の紀州郷土学2D のフィールドワークに位置付け社会を担うリーダー育成の教育プログラムとしての開発を協働で推進している。また、県立田辺高等学校の高校の地域教育科目のプログラムの一部でも、LocalWiki を使った記述と発信を行った。10月22日には、サテライトの10周年記念事業の一環として実施した、藻谷浩介氏とまちあるきの企画の後、この技術を用いて情報を発信した。

#### 3-2 生涯学習関係/講座・セミナー

《県教育委員会や地域連携・生涯学習センターと連携、地域課題に寄り添う取り組みに参画》

- ①平成25年度マナビスト支援セミナー企画ゼミ紀南の部の後方支援。受講生の学びをサポート。
- ②地域生涯学習事業開発プロジェクト参画/地域発展学習プログラム開発と実施に関するセミナー支援。

#### 3-3 本学授業、学生との連携・支援

《学生の調査や研修時に、地域情報を紹介するなどの活動支援を実施》

10周年記念事業にて、模擬講義を実施。模擬講義では、各学部から地域での研究の紹介や、学生が行った地域学習の発表等を実施。会場中庭や研修室を利用して、和歌山大学生の日常の活動も紹介。南紀熊

野地域でのフィールドワークや、各種企画の相談や現地調整。教員の地域研究教育の支援を実施した。

《10周年記念事業、4学部模擬講義の実施支援》

名 称：10周年記念事業・模擬講義【経済学部】

開催日：平成27年12月13日（日）10：45～11：55 参加30名

講演者：藤田和史 准教授、妹尾剛好 准教授 学生参加：システム工学部生 5名

会 場：和歌山県立情報交流センターBig・U ネットワーク実習室

内 容：「タナバロマネバ〜ワダイの学生がみた田辺市の基幹産業〜」

和歌山大学経済学部では、今春エキスパートコースの学生を対象に田辺市で地域調査実習を実施した。その成果を、協力いただいた地元の皆様に報告した。（模擬講義と学生発表は同時に実施）  
学生発表：タイトル「タナバロマネバ〜ワダイの学生がみた田辺市の基幹産業〜」



模擬講義会場の様子（経済学部藤田准教授、他）



学生の研究発表の様子（経済学部）

名 称：10周年記念事業・模擬講義【教育学部】

開催日：平成27年12月13日（日）10：45～11：55 参加37名

講演者：藤田和史 准教授、妹尾剛好 准教授 学生参加：教育学部生 5名

会 場：和歌山県立情報交流センターBig・U 研修室1

内 容：「巨大地震〜どんな場所が危ないの？〜」

平野の生いたちを調べると平野の中でも地震に強い場所と弱い場所があることがわかることから巨大地震の際にどんな場所が危ないのかを考察した。

学生発表：タイトル「からだで親しむ古典〜百人一首カルタの実践〜」

内 容：古典のリズムを体感し、自ら表現する。手作りカルタから広がる古典の学びを参加者に実演した。



模擬講義会場の様子（教育学部久富教授）



学生の研究発表に参加する地元高校生（教育学部）

名 称：10周年記念事業・模擬講義【システム工学部】

開催日：平成27年12月13日（日）10：45～11：55 参加21名

講演者：塚田晃司 准教授 学生参加：システム工学部生、大学院生 2名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 情報実習室1

内容：「災害に備える情報通信技術～どうやって情報を伝えるの?～」

災害時には携帯などのネットが使えなくなることがあります。災害時にも利用可能な情報通信技術を解説します。

学生発表：タイトル「災害を想定した情報通信システムの研究開発」

内容：災害時にネットが使えなくなった場合に力を発揮する新しい情報通信技術のデモンストレーションを行います。



模擬講義会場の様子（システム工学部塚田准教授）



学生の研究発表の様子（システム工学部）

名称：10周年記念事業・模擬講義【観光学部】

開催日：平成27年12月13日（日）10:45～11:55 参加25名

講演者：中串孝志 准教授 学生参加：観光学部生 3名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U 情報実習室2

内容：「地域住民も地球を楽しむ方法～南紀熊野ジオパークを世界へ～」

ジオパークへの住民参加が重要な理由、地域住民が真に参加し楽しむ方法を解説します。

学生発表：タイトル「地域インターンシップの取り組みについて」

内容：観光学部で実施している、学生と地域の方々との協働による地域の課題解決の取り組みを紹介。



模擬講義会場の様子（観光学部中串准教授）



学生の研究発表の様子（観光学部）

#### 【4】地域連携・産官学連携部門／地域からの相談

##### 4-1 大学との地域の連携・協働推進

《企業や自治体、教育関係からの相談対応や事業協力、活動支援を実施》

地域課題解決に向けて学内外の連携、協働を推進。学内の教育支援フォーラムの配信講義への協力、南紀熊野ジオパーク推進協議会への活動支援を実施した。

①地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力。

- ②特別支援教育コーディネーターフォーラム遠隔開催サポート（和大本学→Big.u 通信）今年度5回実施。
- ③高等教育機関コンソーシアム和歌山等の企画提案事業の南紀熊野地域説明会支援。
- ④「南紀熊野ジオパーク構想」推進協議会関連への活動協力を継続実施。西エリアチームの例会に出席するなど継続して推進協議会の企画活動や広報支援を実施した。

#### 4-2 展示関係

《10周年記念事業時に式典会場で大学紹介展示や学生活動紹介》

記念事業にて、式典会場壁面を利用した大学組織の紹介や、サテライトの受講経験者で組織される同窓会の活動紹介を実施。高校生のポスターセッションや展示も実施した。会場にて、和歌山大学クリエの学生ソーラーカー、ソーラー自転車を展示。学生と地域の小中学生が交流する機会となった。



記念式典会場の展示の様子（和歌山大学紹介、同窓会の活動紹介）



広報学生チームPRismによる大学紹介、参加者との交流の様子



和歌山大学キャラクターわだにゃん

ソーラー自転車の大学生と交流



出張土曜講座の様子

大学生がつくったパズルをする参加者



ソーラーカーの展示と説明

#### 4-3 大学広報・情報提供関係

《入試広報物の配架や、学内広報室と連携した情報発信、わかりやすい広報媒体を作成した》

大学の情報誌や講座開催のチラシなどの配架や、学内広報室と連携して、大学内のサークル紹介やウエルカム動画などを配信できる「デジタルサイネージ」の設置を継続的に行った。南紀熊野サテライトのホームページでの活動紹介を頻回に行った。10周年記念事業にて学内広報室と連携した大学紹介を実施。また、写真を多用して、南紀熊野サテライトと大学の紀南地域の取り組みを分かりやすく紹介したパンフレットを配布するなど、学内外への情報発信の強化を実施した。

《広報活動の取り組みの事例》

- ①入学者選抜要項・教員免許状更新講習などの案内冊子の提供や相談対応。
- ②本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施。
- ③地域連携・生涯学習センター発行「生涯学習ニュース」に南紀熊野サテライト通信を掲載。
- ④学内の広報室と連携して、学生活動動画をネット配信できるデジタルサイネージを設置。
- ⑤ホームページの設置と更新回数を増加。
- ⑥地元ラジオ番組に出演して南紀熊野サテライトの活動をPR、受講生募集告知等を実施。
- ⑦10周年記念事業にて和歌山大学や南紀熊野サテライトの広報活動を実施。
- ⑧地元イベントに和歌山大学キャラクターわだにゃんで出演。オープンキャンパス等の広報を実施。



広報学生 PRism が発行している週刊の広報誌を紹介



広報学生 Prism によるクリスマスカードのワークショップの様子と参加した子供達



模擬講義後に和歌山大学の紹介をする広報学生等

名 称：『よしくま祭り～つなげよう！紀伊半島の人・魅力～』に展示出展

開催日：平成28年2月13日（土）・14日（日）

会 場：白浜会館（和歌山県西牟婁郡白浜町）

内 容：吉野熊野国立公園の指定80周年を機に、地域で多様な特色ある取組や人・自然の恵みをつなぎ、今後の地域の元気、楽しい、美味しいにつなげる企画に展示出展にて参加。南紀熊野サテライト活動紹介と受講生募集の広報を実施。和歌山大学キャラクターわだにゃんも地域住民と交流した。

名 称：地元ラジオに出演「平成27年後期募集広報」

開催日：平成27年6月8日（月）8：30～8：45

会 場：FM TANABEにて、後期募集の広報告知と6月20日開催のジオカフェの告知を行った。



地元ラジオ番組でサテライト活動を紹介（左：FM TANABE 右：WBS 和歌山放送）

#### 4-4 客員教授の域活動

＜鈴木裕範（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）の地域活動紹介＞

地域課題に即したシンポジウムや講演会を企画運営、進行を実施している。研究分野の紀州の和菓子や食文化、地域づくり、人づくりの活動を推進している。鈴木客員教授の活動を抜粋して紹介する。

##### ①和歌山県自治体問題研究所総会

名 称：シンポジウム 地域に住む 地域を創る —「自治体消滅」論のなかの「地域創造」—

開催日：平成27年6月13日（土）13：00～16：50

会 場：田辺市民総合センター 生涯学習センター4F 会議室

主 催：和歌山県地域・自治体問題研究所

進 行：鈴木裕範（県地域・自治体問題研究所理事長、和歌山大学客員教授）

内 容：自治体問題研究所の総会にて、シンポジウム鼎談方式で地方創生をテーマに講演、地域住民や参加者と議論を深めた。その企画運営を鈴木裕範客員教授が行った。

記念講演「『地方創生』政策にどう対応すべきか」講演者：保母武彦氏（島根大学名誉教授）

鼎 談「地域に住む 地域を創る」パネリスト：奥田貢氏（北山村長）、竹内雅一氏（田辺市  
龍神村のカフェ梅樹庵オーナーシェフ）、廣本恵子氏（恋ゼミプロジェクト実行委員会代表）



シンポジウムのパネリスト

#### ②御坊文化財研究会設立記念総会

講演名：「和菓子の中の紀州の風景～その文化とまちづくり～」  
開催日：平成 27 年 6 月 14 日（日） 13：30～15：00  
会 場：御坊文化財研究所  
主 催：御坊文化財研究所  
講 師：鈴木裕範（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）  
内 容：御坊文化財研究会設立総会にて、講演を行った。

#### ③岩出市市民講座

講演名：講演「地方消滅論の中で地域を耕す」  
開催日：平成 27 年 6 月 20 日（土） 13：30～15：00  
会 場：岩出市総合福祉センター  
主 催：岩出市教育委員会  
講 師：鈴木裕範（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）  
内 容：岩出市市民講座で講演を行った。

#### ④紀州和菓子と文化を考える会×滋賀県食事文化研究会交流会

開催日：平成 28 年 3 月 19 日（土） 18：30～20：00  
会 場：ビッグ愛（和歌山市）  
主 催：紀州の和菓子と文化を考える会  
内 容：講演「桃の節句と紀州の黄色の菱餅」  
講 師：鈴木裕範（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）

#### ⑤まち・ひと・しごと創生総合戦略関連事業に協力

実 施：平成 27 年 7 月～平成 28 年 3 月  
市町村：御坊市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 座長  
新宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 コーディネーター

#### ⑥ワダイノカフェ

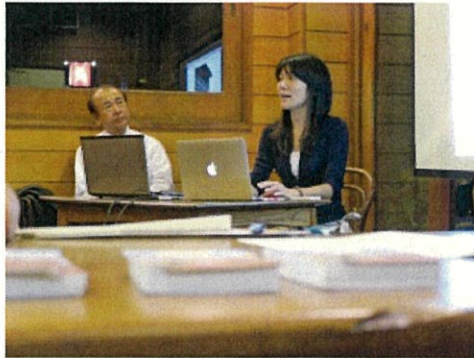
講演名：「 트레이ナーが地域を変える、アートが地域を創造する」  
開催日：平成 27 年 9 月 30 日（水） 18：30～20：00  
参 加：20名（先着順） 対 象：中学生～一般  
会 場：Tomato 2 階（和歌山市板屋町 3）



講演者：鈴木裕範（和歌山大学南紀熊野サテライト客員教授）

ゲスト講師：紀の国トレイナートアートプロデューサー 廣本直子氏

内 容：アートプロジェクトと地域の関わりや、アートプロジェクトが地域の再生や活性化にどうつながるのか…その特色、可能性や課題、成立する要件などについてクロストークを行った。



クロストークの様子



研究会の様子

#### 4-4 きのくに活性化センターとの連携

##### 《きのくに活性化センターの会議や研究調査活動に参画》

支援組織のきのくに活性化センターと連携して、地域課題や地域資源について研究調査活動を実施した。きのくに活性化センターの事業概要は、田辺、新宮両広域圏市町村組合（紀南地方全自治体）、や田辺、新宮商工会議所、JA 紀南、和歌山県、和歌山大学（南紀熊野サテライト）の参画による調査研究機関として、紀南地方の諸課題に関するリサーチや相談窓口の役割を担い、地域の価値をブラッシュアップする事業を提案・協同で実践、地域と地域、地域と人を繋ぐ「場」の創出を行っている。

- ①きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画。
- ②きのくに活性化センター事業へ参画。
- ③「news きのくに」へサテライトの活動紹介記事を寄稿。



きのくに活性化センター総会



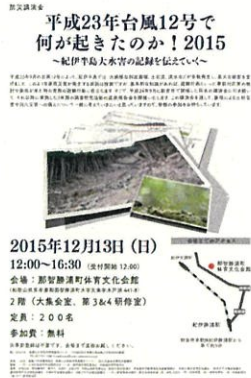
ニュースきのくにに記事投稿

### 【5】台風12号災害対策本部分室としての活動

#### 5-1 台風12号対策（本学対策本部分室の活動）

##### 《防災ジオツアー等開催の広報協力を実施》

平成23年東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部の分室として、南紀熊野サテライトが位置付けられ、その後、学内研究調査のプロジェクトの現地支援や共同研究、研究報告会の現地支援、広報活動等を実施している。防災ジオツアーの広報協力等を実施した。



太地町や那智勝浦町等で実施された「防災シオツアー」告知チラシ

## 【6】運営基盤の強化／視察受入等

### 6-1 大学間連携

《県内コンソーシアム事業への参画や、全国の大学所属の地域連携コーディネーターフォーラムを開催》  
 県内コンソーシアムでの研究推進や、昨年度に続き全国の国立大学、公立、私大など26機関47名の参加者と地域連携について情報交流する場として実施。他、10周年事業の一環として、全国の大学に拠点設置の現状についてアンケート調査を実施した。

開催名：「第4回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」

開催日：平成27年9月11日（金）～12日（土）1泊2日 26機関47名が参加

会場：1日目：長野大学・9号館3階 リプロホール/2号館2階

2日目：長野大学・2号館2階

内容：和歌山大学では、地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に、第4回「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（合宿型研修）」を実施している。今回の開催では、今後の大学と地域を繋ぐ方向性とはどのようなものなのか、基調提起の後に、これまでの成果と課題・総括を踏まえたうえで、前回までの課題（①習熟度別、②フェーズに対応した分科会設定、③ネットワークの発展化）の検討を実施した。

基調提起①民が建てた大学の使命 ～長野大学の地域連携～

講演者：長野大学地域連携センター長・環境ツーリズム学部教授 古田睦美氏

基調提起②大学と地域を繋ぐ理由 ～当セミナーの意義と課題～（仮）

講演者：一般社団法人国立大学協会 専務理事/和歌山大学前学長 山本健慈氏

地域連携担当者を持つ機関や大学に幹事校として呼びかけ、情報交換の場として実施。

国立大学・公立大学・私立大学をはじめとした大学等が参加。本事業では地域連携に関わる教職員・コーディネーターの人材育成、大学と地域の発展に向けた輿論づくり、地域型サテライトへの着目の3点を目的に、第二回の「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（研修）」を実施している。



地域を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナーの様子（長野大学）

## 6-2 南紀熊野サテライト運営基盤の強化に向けて

### 《南紀熊野サテライト連携協議会企画運営委員等と「みらい戦略第三期計画」骨子案を策定》

「地域の知の拠点」として授業開催の機会提供だけではなく、紀南地域をフィールドとした「課題解決・地域価値創造」に資する教育（人材育成）・研究（理論と実践）・実践（政策・地域づくり）の発展を目的としたみらい戦略第三期アクションプラン策定のために具体的な案を企画委員等と意見交換を行った。

また、10周年を機に地域住民、自治体職員、大学教員、同窓会、他大学に向けてアンケート調査を実施。このアンケート結果を、次年度からの運営に活かす為に具体的な議論を進める。策定については、企画委員と協議の上、今後の発展的な地域連携と地域課題解決等の教育・研究活動の充足を目的として、具体的な実践項目を第二期計画の20項目について見直しを行い。現状と課題を確認したうえで、達成した項目と未達成項目などの策定プランの分析を行い重点的な項目を策定する。その骨子案を策定した。

## 6-3 南紀熊野サテライト視察の受け入れ

### 《他大学の視察の受入や学内教職員の視察受入を実施》

#### 関西経済同友会の下部組織『サイバー適塾』研修視察

開催日：11月25日（水）午後15時～17時 参加者：15名

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U ネットワーク実習室

内容：きのくに活性化センター、南紀熊野サテライトの活動内容についてヒアリング（地域での人材育成や戦略について）活動資料を提示して対応を行った。視察団体は、研修として、行財政改革をテーマにグループディスカッションをしており地方創生に関連する地域活動のヒアリングを実施している。鈴木先生から、田辺市、新宮市での地域活性化の取り組み事例を紹介して、地域多様な文化や歴史、自然、食などの地域資源や特性を強みとして活用することや、地域経済再生が急務として、基幹産業の農林漁業や地場産業の振興や公共交通の課題もあげながらも地域づくり、産業の承継などを担う若者や女性の出現がみられことに期待感、地域をデザインするプロデューサーやコーディネーターが重要として、住民自治の尊重と自立の推進、地域の内発力への信頼に基づく支援、女性の出番づくりと活躍のための環境整備、UI ターンの一層の促進のための環境整備、意欲のある住民の創業・起業に対する支援、人々が自ら発言し、行動を起こせる場や空気を作り出すことが重要と講話して、地域経済の再生について事例を紹介した後に意見交換を行った。

構成：サイバー適塾の活動紹介、ヒアリング趣旨説明、貴社の活動内容・質問内容に関するご講話（鈴木先生対応）（50分程度）、質疑応答（60分程度）

他、新宮中学生が10周年の模擬講義に参加。新宮市教育委員会の方が引率。当日に活動紹介をしていた和歌山大学生等と交流した。

## 6-4 会議運営・他サテライトとの交流会、和歌山大学の最前線拠点として

《各種会議運営や南紀熊野サテライトや和歌山大学の活動成果の情報発信を実施》

- ① オフィス会議、南紀熊野サテライト連携協議会総会、幹事会、企画運営会議の会議事務局を担当。
- ② 和歌山大学の全学の最前線拠点・情報拠点として、大学案内・入試案内・各種情報提供を地域で行うと共に、南紀熊野地域の知の拠点として、教育研究事業への参画・連携、情報発信等の活動を実施した。
- ③ 「NEWS きのくに」に寄稿するなど、成果報告や活動成果の情報発信を実施。

以上

## あしがき

本年度もサテライト事業の展開・企画遂行、地域連携事業が多岐にわたり、さまざまな成果となった。これらは、サテライトオフィスだけでは達成されるものではなく、受講生の皆様、地域の皆様、学内の皆様、関係者の皆様の支えがあって実施されたものである。皆様に厚く御礼を申し上げます。

今後も「地域と融合する大学」の実践に向けて、様々な取り組みを実施します。

和歌山大学南紀熊野サテライト